



中国日本商会

今どきコラムー83

中国雑談

貴州の次の一步

2019 中国国際ビッグデータ産業博覧会（5月26日～5月29日）の開幕前、筆者は聯通（貴州）5G イノベーションセンター、朗瑪情報技術公司、政府ガバナンス能力向上大数
据（ビッグデータ）応用国家工程実験室、中電科大数据研究院、貴州車秘科技有限公司、
貴州人和致遠数据服務公司などの貴州の IT 企業を取材した。

数年前に比べると、貴陽は数年にわたるスマートプロジェクトを経て、2015 年から国際舞台で次第に頭角を現し始めた。英国のエコノミストシンククタンクが発表した「新進気鋭都市：2015 年中国新興都市リスト」レポートで、貴陽は中国の 93 の新興都市の第一位にランキングされた。2016 年には、ミルケン研究所が発表した「中国のベストパフォーマンスシティ」指標レポートで、貴陽は全国 260 都市のトップに立ち、上海・天津・北京がそれぞれ 2 位、3 位、4 位となった。2018 年には「中国ビッグデータ企業ランキング」上で、雲上貴州公司在「スマート政務」と「都市ビッグデータのシェア・交換」分野でトップとなり、中国のスマートシティのトップランナーとなった。

筆者が取材した貴陽の企業から、貴陽が創り上げた「貴陽インターネット病院」を見い出すことができ、それはオフラインの実店舗薬局・コミュニティ病院・村の診療室などと、貴陽健康アプリや貴州インターネットの公式サイトとを結合し、融合・共用を実現するものだ。中でも「39 健康ネット」は一日当たりの訪問者数はすでに 1800 万人を超えている。

貴陽市ビッグデータ産業の総規模はすでに 1000 億元を超えている。現在、貴陽市ビッグデータおよび関連企業は 4000 社を超え、筆者が取材した企業以外にも、貨車帮、数聯銘品などの多くの現地ビッグデータ企業があり、富士康、IBM、クアルコム、アップルなど世界トップ 500 企業もあり、その他アリ、沸訊、華為、京東など国内ビッグデータのトップ企業も相次いで貴陽に拠点を設けている。

現在貴陽ではさらに新たな行動が始められている。今回の目標は貴陽ビッグデータ発展のアップグレード版である「中国数谷」を打ち立てることだ。ビッグデータと実体経済の深い融合の推進、ビッグデータ





の集中と汎用の深化、ビッグデータ産業の発展空間構造の優良化、ビッグデータ運用により保障と民生改善を促進し、ビッグデータとネットワークの安全保障を強化するものだ。貴陽市ビッグデータ委員会の唐振江主任は、「ビッグデータ時代の発展は時宜にかなったもので、貴陽は『カーブを直線走行し、後発が先発に追いつき追い越す』千載一遇のチャンスを得て、貴陽と先進地域が本当に同一のスタート地点に立っている」と総括する。

貴陽は発展し、貴陽は前進する方向を持つことになった。2017年、貴州省はビッグデータに牽引され、電子情報製造業の付加価値は86.3%増となり、電力と並び、工業経済の第二の成長ポイントとなっている。2018年6月の段階で、貴陽のビッグデータ企業は8900社余りに達している。

貴陽において、筆者は外資企業とも交流を行った。十年前、貴陽がこんなに速く発展するとは誰も思わず、現時点で貴陽の今後の10年を見てみると、10年前と同じように、ここに新たな伸びしろを見い出すことはできないだろうか。貴陽と貴州の伸びしろは、ここが西南部のビッグデータ産業の最高峰で、東南アジア全体を俯瞰できる地理的優位を備えていることにあるのかもしれない。西南部と東南アジア市場のデータ経済の前途は、貴陽にとって極めて重要なものといえる。

(『人民中国』副総編集長)